

令和 7 年 1 月 24 日

## 令和 6 年度 仙台市公共事業再評価の結果と対応方針

仙台市長 郡 和子

令和 6 年度に再評価を実施した下記事業の再評価の結果と対応方針は、仙台市公共事業再評価検討委員会が作成した対応方針案を踏まえ、下記のとおりとする。

### 記

#### 再評価の結果と対応方針

事業名	再評価結果	対応方針案
都市基盤河川改修事業（高野川改修事業）	別紙 1 のとおり	事業継続
都市基盤河川改修事業（笹川上流改修事業）	別紙 2 のとおり	事業継続

(様式-1-3)

# 令和6年度 再評価対象事業リスト (河川事業)

事業名 都市基盤河川改修事業 (高野川改修事業)

事業の目的・内容	事業の進捗状況				事業を巡る社会・地元情勢の変化	事業の状況及び今後の見通し	費用対効果に係る要因の変化の有無 費用対効果(B/C)	対応方針 (案)	備考
	全体		H14年度						
<p><b>【事業名】</b> 都市基盤河川改修事業(高野川)</p> <p><b>【事業の目的】</b> 当事業は 治水:(市民の安全を守る) 利水:(市民の生活を支える) 環境:(市民の生活をうるおす)</p> <p>の河川に求められている機能の確保に 的確に応えるため、治水安全度の向上 により浸水被害を低減させるとともに、 河川環境の保全を図るものである。</p> <p><b>【事業の内容】</b> ・改修延長 L=3,830m ・治水安全度 1/30 ・計画降雨強度 94.6mm/hr</p> <p>※1/30:毎年1年間にその規模を超える 洪水が発生する確率が1/30(3.3%)で ある。</p>	事業着手 年度	昭和48年度	H14迄 事業費(D)	47.2億円	<p>①過去の被害状況 昭和61年8月5日浸水実績(浸水戸数465戸、農地浸水面積60ha)公共施設等(JR仙石線、東北本線、主要地方道仙台松島線、コミュニティセンター、幼稚園等)。 ②地域開発の状況 土地区画整理事業「新田東(61.6ha)」「燕沢(2.1ha)、ミニ開発(21箇所)、仙台市公共下水道計画「高野川第1~7排水区」雨水幹線の整備。 ③他事業との調整 国土交通省との国道4号橋梁架け替えに関する協議。 ④環境への影響 地域の自然環境に配慮し、多自然型河道改修を計画している。 ⑤地域の協力体制等 市議会における反対決議や中止勧告等は生じておらず、協力体制に変化は生じていない。</p>	<p>都市基盤河川改修事業(当初都市小河川改修事業)により、昭和48年度に事業に着手し、現在下流より1,932m(一部国道4号横断箇所、JR横断箇所を除く)区間で概成している。 事業当初の計画では、1/20~1/50確率規模の治水安全度確保を目標としてきたが、高野川を横断する国道4号の橋梁架け替えがネックとなり、平成10年度に計画の見直しを行っている。(暫定計画)</p> <p>国道4号バイパス拡幅工事と平行し平成15年度から国道横断部の改修(治水安全度1/30)に着手する。また、今後は主要地方道仙台松島線から上流L=1,672mの改修を進める計画である。 事業前→ (暫定改修) 将来計画 1/2程度 1/10 1/30 ~平成20年完成</p>	<p>事業全体のB/C B=110.7億円 C=74.8億円 B/C=1.4</p>	<p>事業継続</p>	<p>※H10年度 再評価実施</p>
	用地買収 着手年度	昭和48年度	H14迄 用地費(E)	21.0億円					
	工事着手 年度	昭和51年度	H14迄 工事費(F)	21.9億円					
	完了予定年度	平成20年度							
	全体事業費 (A)	84.4億円	全体進捗率 (D/A)	56.00%					
	全体用地費 (B)	34.9億円	用買進捗率 (E/B)	60.30%					
	全体工事費 (C)	49.5億円	工事進捗率 (F/C)	44.20%					
	全体計画	延長3,830m 面積4.42km <sup>2</sup>	供用延長・ 整備率等	1,932m 50.40%					
	全体(変更後)		H19年度						
	事業着手 年度	昭和48年度	H19迄 事業費(D)	61.2億円					
	用地買収 着手年度	昭和48年度	H19迄 用地費(E)	25.5億円					
	工事着手 年度	昭和51年度	H19迄 工事費(F)	35.3億円					
	完了予定年度	平成44年度							
	全体事業費 (A)	84.4億円	全体進捗率 (D/A)	72.50%					
	全体用地費 (B)	34.9億円	用買進捗率 (E/B)	73.10%					
全体工事費 (C)	49.5億円	工事進捗率 (F/C)	71.30%						
全体計画	延長3,830m 面積4.42km <sup>2</sup>	供用延長・ 整備率等	2,158m 56.34%						
全体(変更後)		H26年度							
事業着手 年度	昭和48年度	H26迄 事業費(D)	61.9億円						
用地買収 着手年度	昭和48年度	H26迄 用地費(E)	25.9億円						
工事着手 年度	昭和51年度	H26迄 工事費(F)	36.0億円						
完了予定年度	平成44年度								
全体事業費 (A)	85.3億円	全体進捗率 (D/A)	72.57%						
全体用地費 (B)	34.9億円	用買進捗率 (E/B)	74.21%						
全体工事費 (C)	50.4億円	工事進捗率 (F/C)	71.43%						
全体計画	延長3,830m 面積4.42km <sup>2</sup>	供用延長・ 整備率等	2,224m 58.10%						
全体(変更後)		R1(H31)年度							
事業着手 年度	昭和48年度	R1(H31)迄 事業費(D)	62.3億円						
用地買収 着手年度	昭和48年度	R1(H31)迄 用地費(E)	26.2億円						
工事着手 年度	昭和51年度	R1(H31)迄 工事費(F)	36.1億円						
完了予定年度	令和14年度								
全体事業費 (A)	85.3億円	全体進捗率 (D/A)	73.80%						
全体用地費 (B)	34.9億円	用買進捗率 (E/B)	75.00%						
全体工事費 (C)	50.4億円	工事進捗率 (F/C)	72.90%						
全体計画	延長3,830m 面積4.42km <sup>2</sup>	供用延長・ 整備率等	2,224m 58.10%						
<p>異常気象や地震に関する市民の防災意識が高まっている。 都市化の進展に伴い保水能力が低下し、雨水の流出量が増加している。</p>	全体(変更後)		H19年度		<p>異常気象や地震に関する市民の防災意識が高まっている。 都市化の進展に伴い保水能力が低下し、雨水の流出量が増加している。 公共事業費の大幅な削減に伴い、都市基盤改修の補助事業費が平成15年度と比較して約1/10になっている。</p>	<p>都市基盤河川改修事業として、昭和48年度に事業に着手し、平成13年度には下流より1,932m(一部国道4号仙台バイパス横断箇所、JR線横断箇所を除く)では、概成していた。 JR線横断箇所及び国道4号仙台バイパス横断箇所のボトルネック部が、平成14年度から17年度までに解消され、この区間をあわせ、平成19年度では、下流から2,158mが完成している。 今後5ヶ年において、県道仙台松島線から門前橋までの区間を完成させ、その後引き続き上流側の整備を行う。</p> <p>計画: ~平成44完成</p>	<p>事業全体のB/C B=218.1億円 C=141.7億円 B/C=1.54</p> <p>一年遅れた場合のB/C B=216.9億円 C=141.0億円 B/C=1.54</p> <p>現時点までのB/C B=163.8億円 C=124.2億円 B/C=1.32</p> <p>来年度から完了のB/C B=40.5億円 C=16.8億円 B/C=2.41</p>	<p>事業継続</p>	<p>※H14年度 再評価実施</p>
	事業着手 年度	昭和48年度	H19迄 事業費(D)	61.2億円					
	用地買収 着手年度	昭和48年度	H19迄 用地費(E)	25.5億円					
	工事着手 年度	昭和51年度	H19迄 工事費(F)	35.3億円					
	完了予定年度	平成44年度							
	全体事業費 (A)	84.4億円	全体進捗率 (D/A)	72.50%					
	全体用地費 (B)	34.9億円	用買進捗率 (E/B)	73.10%					
	全体工事費 (C)	49.5億円	工事進捗率 (F/C)	71.30%					
	全体計画	延長3,830m 面積4.42km <sup>2</sup>	供用延長・ 整備率等	2,158m 56.34%					
	全体(変更後)		H26年度						
	事業着手 年度	昭和48年度	H26迄 事業費(D)	61.9億円					
	用地買収 着手年度	昭和48年度	H26迄 用地費(E)	25.9億円					
	工事着手 年度	昭和51年度	H26迄 工事費(F)	36.0億円					
	完了予定年度	平成44年度							
	全体事業費 (A)	85.3億円	全体進捗率 (D/A)	72.57%					
全体用地費 (B)	34.9億円	用買進捗率 (E/B)	74.21%						
全体工事費 (C)	50.4億円	工事進捗率 (F/C)	71.43%						
全体計画	延長3,830m 面積4.42km <sup>2</sup>	供用延長・ 整備率等	2,224m 58.10%						
全体(変更後)		R1(H31)年度							
事業着手 年度	昭和48年度	R1(H31)迄 事業費(D)	62.3億円						
用地買収 着手年度	昭和48年度	R1(H31)迄 用地費(E)	26.2億円						
工事着手 年度	昭和51年度	R1(H31)迄 工事費(F)	36.1億円						
完了予定年度	令和14年度								
全体事業費 (A)	85.3億円	全体進捗率 (D/A)	73.80%						
全体用地費 (B)	34.9億円	用買進捗率 (E/B)	75.00%						
全体工事費 (C)	50.4億円	工事進捗率 (F/C)	72.90%						
全体計画	延長3,830m 面積4.42km <sup>2</sup>	供用延長・ 整備率等	2,224m 58.10%						
<p>異常気象や地震に関する市民の防災意識が高まっている。 都市化の進展に伴い保水能力が低下し、雨水の流出量が増加している。</p>	全体(変更後)		R1(H31)年度		<p>異常気象や地震に関する市民の防災意識が高まっている。 都市化の進展に伴い保水能力が低下し、雨水の流出量が増加している。</p>	<p>都市基盤河川改修事業として、昭和48年度に事業に着手し、平成13年度には下流より1,932m(一部国道4号仙台バイパス横断箇所、JR線横断箇所を除く)では、概成していた。 平成14年度から17年度までに、JR線横断箇所及び国道4号仙台バイパス横断箇所のボトルネック部が解消、平成20年度には門前橋までの約66m区間(安行寺橋を除く)の工事により、下流から2,224mが計画断面で完成している。 また、平成28年度から29年度に中流域の暫定整備(1/10)を行った。 今後は、引き続き1/30の整備を行うとともに、ボトルネックとなっている橋梁の架け替えに向けて、用地権利者との重点的な交渉を実施する。</p> <p>計画: ~令和14年完成</p>	<p>事業全体のB/C B=314.1億円 C=250.2億円 B/C=1.26</p> <p>一年遅れた場合のB/C B=313.2億円 C=249.5億円 B/C=1.26</p> <p>現時点までのB/C B=262.8億円 C=231.3億円 B/C=1.14</p> <p>来年度から完了のB/C B=29.8億円 C=18.4億円 B/C=1.62</p>	<p>事業継続</p>	<p>※H26年度 再評価実施</p>
	事業着手 年度	昭和48年度	R1(H31)迄 事業費(D)	62.3億円					
	用地買収 着手年度	昭和48年度	R1(H31)迄 用地費(E)	26.2億円					
	工事着手 年度	昭和51年度	R1(H31)迄 工事費(F)	36.1億円					
	完了予定年度	令和14年度							
	全体事業費 (A)	85.3億円	全体進捗率 (D/A)	73.80%					
	全体用地費 (B)	34.9億円	用買進捗率 (E/B)	75.00%					
	全体工事費 (C)	50.4億円	工事進捗率 (F/C)	72.90%					
	全体計画	延長3,830m 面積4.42km <sup>2</sup>	供用延長・ 整備率等	2,224m 58.10%					

# 令和6年度 再評価対象事業リスト (河川事業)

事業名 都市基盤河川改修事業 (高野川改修事業)

事業の目的・内容	事業の進捗状況				事業を巡る社会・地元情勢の変化	事業の状況及び今後の見通し	費用対効果に係る要因の変化の有無 費用対効果(B/C)	対応方針 (案)	備考
	全体(変更後)		R6年度						
<p><b>【事業名】</b> 都市基盤河川改修事業(高野川)</p> <p><b>【事業の目的】</b> 当事業は 治水:(市民の安全を守る) 利水:(市民の生活を支える) 環境:(市民の生活をうるおす)</p> <p>の河川に求められている機能の確保に 的確に応えるため、治水安全度の向上 により浸水被害を低減させるとともに、 河川環境の保全を図るものである。</p> <p><b>【事業の内容】</b> ・ 改修延長 L=3,830m ・ 治水安全度 1/30 ・ 計画降雨強度 94.6mm/hr</p> <p>※1/30:毎年1年間にその規模を超える 洪水が発生する確率が1/30(3.3%)で ある。</p>	事業着手 年度	昭和48年度	R6迄 事業費(D)	65.2億円	<p>近年の気候変動による激甚化、頻発化する豪雨災害発生を受け、以前にも増して市民の防災への意識が高まっている。</p> <p>都市化の進展による流域全体の雨水浸透能力の低下や気候変動による降雨量の増加に伴い、河川への雨水の流出量が大幅に増加する傾向となっている。</p>	<p>市道横断箇所のボトルネック部を解消するため、安行寺橋の架け替えを進めているが、関係地権者との協議や用地取得交渉が著しく難航したことから、大幅な事業期間の見直し等計画に変更が生じた。</p> <p>計画法線の一部を見直し橋梁及び河川設計を修正する等、河川隣接者との調整や関係地権者との用地交渉を粘り強く続けた結果、橋梁の架け替えに要する用地取得を令和4年度に完了するに至っている。</p> <p>その後、橋梁架け替えの対応として現道を切り替える必要があることから、令和4年度より仮設道路の整備に着手し、並行してガス、水道、電力及びN・T・T等各地下埋設物の移設を進め、令和5年度に仮設道路整備が完了した。</p> <p>今後は、令和6年度完了を予定している下水道施設の移設工事が完了次第、安行寺橋の架け替えに着手する。また、上流で市道を横断している4箇所の橋梁も、ボトルネック解消のため架け替えを進める。</p> <p>なお、宅地化の進んだ上流部において用地交渉の難航が想定されるほか、安行寺橋における用地交渉の著しい難航による大幅な事業期間の見直しが生じたことから、事業期間を10年延伸する。</p> <p>計画: ~令和24年完成</p>	<p>事業全体のB/C B=393.9億円 C=357.8億円 B/C=1.10</p> <p>一年遅れた場合のB/C B=393.3億円 C=357.2億円 B/C=1.10</p> <p>現時点までのB/C B=351.7億円 C=342.1億円 B/C=1.03</p> <p>来年度から完了のB/C B=32.2億円 C=15.2億円 B/C=2.12</p>	事業継続	※R1年度再評価実施
	用地買収		R6迄						
	着手年度	昭和48年度	用地費(E)	28.3億円					
	工事着手		R6迄						
	年度	昭和51年度	工事費(F)	36.9億円					
	完了予定年度	令和24年度							
	全体事業費(A)	85.3億円	全体進捗率(D/A)	76.47%					
	全体用地費(B)	34.9億円	用買進捗率(E/B)	81.09%					
	全体工事費(C)	50.4億円	工事進捗率(F/C)	73.21%					
	全体計画	延長3,830m 面積4.42km <sup>2</sup>	供用延長・整備率等	2,224m 58.10%					

(様式-1-3)

## 令和6年度 再評価対象事業リスト（河川事業）

事業名 都市基盤河川改修事業（笹川上流改修事業）

事業の目的・内容	事業の進捗状況				事業を巡る社会・地元情勢の変化	事業の状況及び今後の見通し	費用対効果に係る要因の変化の有無 費用対効果(B/C)	対応方針 (案)	備考
	全体		H14年度						
<p><b>【事業名】</b> 都市基盤河川改修事業(笹川上流)</p> <p><b>【事業の目的】</b> 当事業は 治水:(市民の安全を守る) 利水:(市民の生活を支える) 環境:(市民の生活をうるおす)</p> <p>の河川に求められている機能の確保に 的確に応えるため、治水安全度の向上 により浸水被害を低減させるとともに、 河川環境の保全を図るものである。</p> <p><b>【事業の内容】</b> ・改修延長 L=2,845m  笹川:L=1,450m  後田川:L=1,395m ・治水安全度 1/30 ・計画降雨強度 76.6mm/hr</p> <p>※1/30:毎年1年間にその規模を超える 洪水が発生する確率が1/30(3.3%)で ある。</p>	事業着手 年度	平成元年度	H14迄 事業費(D)	29.3億円	<p>①過去の被災状況 昭和61年台風10号、平成2年9月台風19号、平成6年9月集中豪雨、最大 浸水被害:平成2年9月19~20日、最大浸水戸数273戸、最大農地浸水面積 0.9ha、公共施設等(国道286号) ②地域開発の状況 土地区画整理事業「山田鉤取(8.9ha)」ミニ開発(32箇所)、仙台市公共下 水道計画「名取川左岸排水区」雨水幹線の整備。 ③他事業との調整 都市計画道路(仙台市)改築に伴う市道橋梁架け替えに関する協議。 ④環境への影響 地域の自然環境に配慮し多自然型の河道改修計画で整備を行っている。 ⑤地域の協力体制等 太白区蛸の里づくり協議会による「蛸の里づくり事業(平成2年度から)、笹川 環境美化推進協議会による定期清掃、流域の巡視等の実施、仙台市河川 愛護の啓蒙、自然環境保全(笹川他9河川)、仙台市立上野山小学校による 水辺の環境調査、および笹川美化清掃活動。</p>	<p>都市基盤河川改修事業により、平成元年度に事業に着手し、現在笹川に ついてはL=1,450mのうち約1,370m、後田川についてはL=1,395mのうち約 500mの改修(治水安全度1/30)が完了している。 事業は、平成15年度までに笹川全区間の改修を完了させ、引き続き後田 川の改修を行い、平成17年度には、後田川全区間の改修を完了させる予定 である。 笹川 ~平成15年度完成 後田川 平成13~17年度完成</p>	<p>事業全体のB/C B=64.5億円 C=43.4億円 B/C=1.4</p>	<p>事業継続</p>	<p>※H10年度 再評価実 施</p>
	用地買収 着手年度	平成元年度	H14迄 用地費(E)	13.0億円					
	工事着手 年度	平成3年度	H14迄 工事費(F)	13.7億円					
	完了予定年度	平成17年度							
	全体事業費 (A)	43.7億円	全体進捗率 (D/A)	67.00%					
	全体用地費 (B)	18.1億円	用買進捗率 (E/B)	72.00%					
	全体工事費 (C)	25.6億円	工事進捗率 (F/C)	53.50%					
	全体計画	延長2,845m 面積9.36km <sup>2</sup>	供用延長・ 整備率等	1,868m 65.70%					
	全体(変更後)		H19年度						
	事業着手 年度	平成元年度	H19迄 事業費(D)	30.8億円					
	用地買収 着手年度	平成元年度	H19迄 用地費(E)	14.4億円					
	工事着手 年度	平成3年度	H19迄 工事費(F)	16.4億円					
	完了予定年度	平成38年度							
	全体事業費 (A)	43.7億円	全体進捗率 (D/A)	70.30%					
	全体用地費 (B)	18.1億円	用買進捗率 (E/B)	79.40%					
全体工事費 (C)	25.6億円	工事進捗率 (F/C)	63.90%						
全体計画	延長2,845m 面積9.36km <sup>2</sup>	供用延長・ 整備率等	1,870m 65.70%						
全体(変更後)		H26年度							
事業着手 年度	平成元年度	H26迄 事業費(D)	31.7億円						
用地買収 着手年度	平成元年度	H26迄 用地費(E)	14.6億円						
工事着手 年度	平成3年度	H26迄 工事費(F)	17.1億円						
完了予定年度	平成38年度								
全体事業費 (A)	43.7億円	全体進捗率 (D/A)	72.54%						
全体用地費 (B)	18.1億円	用買進捗率 (E/B)	80.66%						
全体工事費 (C)	25.6億円	工事進捗率 (F/C)	66.80%						
全体計画	延長2,845m 面積9.36km <sup>2</sup>	供用延長・ 整備率等	1,893m 66.54%						
全体(変更後)		R1(H31)年度							
事業着手 年度	平成元年度	R1(H31)迄 事業費(D)	31.8億円						
用地買収 着手年度	平成元年度	R1(H31)迄 用地費(E)	14.6億円						
工事着手 年度	平成3年度	R1(H31)迄 工事費(F)	17.2億円						
完了予定年度	令和8年度								
全体事業費 (A)	43.7億円	全体進捗率 (D/A)	72.80%						
全体用地費 (B)	18.1億円	用買進捗率 (E/B)	80.66%						
全体工事費 (C)	25.6億円	工事進捗率 (F/C)	67.20%						
全体計画	延長2,845m 面積9.36km <sup>2</sup>	供用延長・ 整備率等	1,973m 69.35%						
					異常気象や地震に関する市民の防災意識が高まっている。	都市基盤河川改修事業として、平成元年度に事業に着手し、現在笹川は 事業延長L=1,450mのうち鉤取橋関連を除く約1,370m、後田川は事業延長 L=1,395mのうち、約500m(先行して老朽化した区間の片側護岸整備も含む) の改修が完了している。	事業全体のB/C B=127.8億円 C=67.8億円 B/C=1.89 一年遅れた場合のB/C B=127.1億円 C=67.6億円 B/C=1.88 現時点までのB/C B=99.5億円 C=57.4億円 B/C=1.73 来年度から完了のB/C B=39.6億円 C=9.9億円 B/C=3.98	事業継続	※H14年度 再評価実 施
					都市化の進展に伴い保水能力が低下し、雨水の流出量が増加している。	今後5ヶ年で、笹川においては鉤取橋の改築に併せて、浸水想定区域の 改修を完了させ、後田川においては、浸水想定区域のうち、下流より名召橋 までの区間の浸水の解消を図り、引き続き上流側の改修を行う。 笹川 ~平成23年度完成 後田川 平成13~38年度完成			
					新たな河川愛護団体等による環境美化運動が活発化している一方、既存 の河川愛護団体の構成員の高齢化が進んできており、今まで清掃や除草を ボランティア活動で協力していただいたものが、縮小傾向になる。				
					異常気象や地震に関する市民の防災意識が高まっている。	都市基盤河川改修事業として、平成元年度に事業に着手し、現在笹川は 事業延長L=1,450m全区間、後田川は事業延長L=1,395mのうち、約500m (先行して老朽化した区間の片側護岸整備も含む)の改修が完了している。	事業全体のB/C B=169.4億円 C=82.9億円 B/C=2.04 一年遅れた場合のB/C B=168.4億円 C=82.5億円 B/C=2.04 現時点までのB/C B=134.5億円 C=72.8億円 B/C=1.85 来年度から完了のB/C B=31.4億円 C=9.9億円 B/C=3.17	事業継続	※H19年度 再評価実 施
					都市化の進展に伴い保水能力が低下し、雨水の流出量が増加している。	今後、笹川においては鉤取橋の改築を完了させ、後田川においては、引 き続き改修済み区間上流側の改修を行う。 笹川 ~平成26年度完成予定 後田川 平成13~38年度完成			
					河川愛護団体の構成員の高齢化が進んできており、今まで清掃や除草を ボランティア活動で協力していただいたものが、縮小傾向になる。				
					異常気象や地震に関する市民の防災意識が高まっている。	都市基盤河川改修事業として、平成元年度に事業に着手し、現在笹川は 事業延長L=1,450m全区間、後田川は事業延長L=1,395mのうち、約500m (先行して老朽化した区間の片側護岸整備も含む)の改修が完了している。 また、笹川においては鉤取橋の改築を完了した。	事業全体のB/C B=206.2億円 C=103.7億円 B/C=1.99 一年遅れた場合のB/C B=206.7億円 C=103.3億円 B/C=2.00 現時点までのB/C B=174.5億円 C=93.0億円 B/C=1.88 来年度から完了のB/C B=16.2億円 C=10.6億円 B/C=1.53	事業継続	※H26年度 再評価実 施
					都市化の進展に伴い保水能力が低下し、雨水の流出量が増加している。	後田川においては、引き続き改修済み区間上流側の改修を行う。  後田川 計画: ~令和8年度完成			

